

令和4年度高知西高校国際シンポジウム開催！



高知西高校主催最後の国際シンポジウム開催！

7月12日（火）、高知県民文化ホールオレンジホールにて、令和4年度高知西高校国際シンポジウムを開催しました。今回は、高知西高校主催で実施する最後の国際シンポジウムとなりました。

今年度もコロナ対策を十分行ったうえで開催をさせていただきました。会場には高知西高校3年生や高知国際高校1・2年生、高知国際中学校2・3年生や来賓の方々が登場し、一方で、高知国際中学校1年生の生徒や保護者の皆様とは、本会場とZoomを活用し中継をつないで、視聴しました。



【3年生研究発表】



国際シンポジウム午前中のプログラムは、3年生代表5チームによる研究発表を行いました。プレゼンテーションはすべて英語で行い、パワーポイントの内容は、聴衆生徒にも分かりやすいように日本語で提示しました。聴衆参加型の発表形態をどのチームも行い、聴衆生徒と一体になった研究発表になりました。発表者の探究内容を聴いて、生徒たちは新たな気づきを得たようです。

【研究発表内容】・「地域創生の新たな視点！～いの町フェアトレードタウン構想～」

- ・「今すぐあなたも *Active Learning*」
- ・「5C～私たちと繋がるカンボジア～」
- ・「*PERIOD*～put a period to the pain～」
- ・「*TEFI PROJECT* で世界に *Smile* を～あなたの洋服は誰かの犠牲でできている～」



SGH 1～2期生の先輩方とのパネルディスカッション！

【パネルディスカッション】

【討論内容】 「高校での探究活動は、将来どのような場面で、どの程度役に立つのか？」



午後からは、「高校での探究活動は、将来どのような場面で、どの程度役に立つのか？」をテーマにパネルディスカッションを行いました。今年度は、本校 SGH 指定 1～2 期生の先輩方を招き、探究活動の意義について意見交換を行いました。ディスカッションでは、探究活動を通して感じた難しさや楽しさ、また、日常の授業や社会生活において、日々の探究活動がどの程度役立っているのかについて、それぞれの立場を踏まえた意見交流が繰り広げられました。聴衆者からも積極的な意見や質問がでて、非常に活発なディスカッションになりました。



【講評】



最後に、今回の国際シンポジウムを振り返って、高知学園大学・高知学園短期大学の近森憲助学長より、ご講評をいただきました。

国際シンポジウムについては、ディスカッションを通して、探究活動の根幹（基本的なもの）に触れるような問いが生まれ、それが「探究活動」の本質を考える良い機会になったことを評価していただきました。

生徒たちへのメッセージとして、「探究活動は各々の生活に即して身近に存在していることを踏まえ、探究活動を通してみんなは生きているのだ」というお言葉をいただきました。

今回の国際シンポジウムをきっかけに、今後自らの課題に対して探究・解決できるよう成長してほしいと思います。

【生徒の感想】

皆の発表はどれも、自分達だけではなくて他者にも影響を与えるようなプロジェクトばかりだったので、これからの個人研究にも活かせれると思いました。

探求活動の話で他の人の意見を受け入れることと自分から積極的に提案をすることの大切さが分かりました。私は自分の意見をすぐに言うことが少し苦手などのできるようになりたいと思いました。

先輩の方々にもきていただき、たくさんのお話を聞けることができました。その中でも印象に残っているのは、探究を通して感じたことで、先輩がコミュニケーション能力が上がった、とおっしゃっていて、自分もその意見に共感しました。

自分たちの仮説に対して、実際に行動して検証し、そこから新しい学びを得て、もう一度考察するという探究方法をとっているグループが多く、後輩にとってとてもいい例だなと思いました。3年間を通して、聞く人にとっても上手く伝わるのかという発表の流れの探究もしっかり活かされていると感じました。

探究活動をすることへの価値について、舞台でも客席でも意見がわかれていたが、卒業生のお話を聞き、今は役立つと感じていなくても、将来そう感じることは多々あると聞いて、今できることを全力でやることへの重要性に気付くことができました。

去年の発表に比べても、そのテーマに対する検証がしっかりと納められていて、どのグループも十分に納得できたように思う。発表時間もばらつきがほとんどなく、内容・まとまり共に質の高い発表だったと思う。